総計学研 ―学生から全学者時の学校へ

ある日、見春期のデリケートな感じ方をしてすりあうなかで、[illegible]、理想を求める[illegible]見、[illegible]大学を目ざし、[illegible]、[illegible]、[illegible]

私学における更なる発展しても、大学において教育いや教学権よりも経営権が優先する決定的手段は何を意味するか。　学生のための教育をなぐ手段、人間としての価値をそこに見出すものである。この度のみを現日大の手段を言いつくせるものと思う。

我々は何を得たか、九月末日は[illegible]、知って通り、前面はあたかも民主化するかの様に体をつくり、民主化が確立[illegible]何も変革的に提案してきていない。

彼等の言う民主化とは、生産工学部で見られた如く、[illegible]に固執した、校舎所での授業料はしさの教育不在のための計画であり、強大な資本力による学生・父兄の圧殺である。

さらに最も憂うべきは、古田氏が大学の一部、[illegible]である教育者（かなり政略的ではあるが）日大ではすこぶる良識人が選ばれようとしている。

この度の統計学科廃科問題は、古田氏（[illegible]）が古田理事長教育（[illegible]）とは余りに恐れおおい教育に対する暴虐であり、統計学科教育と[illegible]が衰退に陥れていると思われる。

少くとも統計スタッフは、大学教育に対し[illegible]を[illegible]つらぬいてきた。文廃科問題は学生を無視し、教授を無視し、社会を無視し、[illegible]は、学生人の良識を超越する何ものでもない。[illegible]私学教育を放棄する私物化し、大学という最高学府をも私物化しようとしている。[illegible]自己利益のみに終始する者の行為は教育に対する暴虐であり、[illegible]に対するハレンチな挑戦である。

もし古田理事長が[illegible]モデル的[illegible]を[illegible]が黙認するならば、日大におけるすべての良識ある教育者に対する暴虐を計するならば、[illegible]日大に[illegible]

我々は、かかる者の不法な弾圧を粉砕しなければならない。

全学生、危機感を持ち、統計学科[illegible]、[illegible]なく、[illegible]自らの問題とし、[illegible]

我々は、いかなる制度においても、学生が[illegible]決して、[illegible]

真の教育をめざし、誠の大学を求め、日大[illegible]共に戦おう!!

人間をもっとも　欲しているのは

[illegible]

[illegible]

日大闘争[illegible]